

人の心どれだけ動かすか

70回目を迎えた大会の意義について、東進ハイスクールの運営で知られ、今年度から特別協賛として大会を支援するナガセの永瀬昭幸社長と、自民党の有村治子参議院議員に語り合ってもらった。有村氏は1985年の大会で2位となり、大学時代に日本学生協会基金のスタッフとして大会運営に携わった経験を持つ。

ナガセ社長 永瀬昭幸氏
参議院議員 有村治子氏

は他にも、成績優秀者に給付金を与えて米国留学させる制度などを設けており、世界で活躍する次世代リーダーの育成に注力している。

大会出身者として、有村氏は「世界に目を見開くチャンスをいただきたいからこそ今日の私がある。参加した仲間とは寝食をともにし、夢を互いの方言で語り合い、刺激を受けた。今でも親友で、かけがえのない財産になっている」と振り返った。

英語を学ぶ意義について、永瀬氏は「最後は人の心をどれだけ動かし、共感

を得て、人を動かせるかどうか重要」と強調。有村氏も「伝わってなんぼ。世



対談するナガセの永瀬昭幸社長(左)と有村治子参議院議員(11月15日、東京都新宿区で)

界と渡り合っていくためには、言語の力を知り、知の格闘技、魂の交流をしておく必要がある」と応じ、意気投合した。

大会の今後について、永瀬氏は「中学生に限らず、小学生や高校生の部があってもいい。スピーチのほか、ディベート部門を設けてもいいのでは」と話し、有村氏は「日本が引き続き先進国でいるためには、突き抜けていく人をみんなで応援しようという心の豊かさがあつていい」とメッセージを送った。

対談は11月15日、東京都新宿区内で行われました。詳細は読売教育ネットワークのサイトに掲載しています。